



目 次

第4回金沢大学附属図書館シンポジウム開催報告.....	2
蔵書散策 第1回 村上英俊と『仏語明要』.....	6
教官寄贈図書のご紹介.....	7
トピックス コイン式コピー機導入.....	8
展示コーナー開設.....	8
高校生・PTA 図書館見学	8
『学会年報・研究報告論文総覧』を購入	8
北信越地区医学図書館協議会開催.....	9
工学部分館に情報コンセント設置.....	9
電算システム更新に伴う臨時休館のお知らせ.....	10
としょかん日誌(1998年9月~11月).....	10



「勉強するなら金大へ！」大学見学会に図書館も協力しています。
(写真は鯖江高校の皆さん，10月29日。8ページをご覧ください。)

研究成果流通と大学図書館

第4回金沢大学附属図書館シンポジウム

開催報告

大学図書館の抱える諸問題を学内外の利用者や関係の皆様にご認識していただき、ご意見を伺うために開催してまいりました金沢大学附属図書館シンポジウムも今年度で4回目となりました。今回は、「研究成果流通と大学図書館」というテーマで約70名の参加者を得て次のとおり開催しました。

- ・日時：1998年10月23日(金) 13:30～17:00
- ・場所：金沢大学教育開放センター

岡田晃学長のあいさつに引き続き、学外からお招きした講師と学内の発表者4名の方にそれぞれの観点からテーマに関する問題点の提示と提言をして頂き、その後、参加者も交え活発な意見交換がなされました。ここでは、講演・発表の要旨及び参加者の感想を報告いたします。

(まとめ：広報委員会)

大学紀要類の電子化 をめざして

基調 講演



内藤 衛亮
(ないとう・えいすけ)
学術情報センター教授。
専門は図書館情報学。現
在の研究課題は学術情報
の流通に関する研究。

まず、英国のブレア政権が掲げている「我々の情報時代：政府の構想 (Our information age : the government's vision)」という情報電子化政策が紹

介された。この政策自体は日本の政策と似たものだが、数値目標や期限を明確にしている点が異なる。日本では全国的な主体がはっきりしない公共図書館についても、英国では2002年までにすべてをオンライン接続することになっている。こういった情報利用のアクセス機会を拡大する政策は、最終的には行政サービスの近代化につながる。

次に、国内大学紀要の電子化計画の経緯と事例の紹介がされた。内藤氏が携わった平成6～9年度科学研究費「研究成果流通システムの研究開発」等では、鹿児島大、熊本大、金沢大など6大学の協力の下に紀要を使った研究流通の改善の方法と問題点についての実験・研究が行われた(その成果は次のサイトで閲覧できる。<http://www.rd.nacsis.ac.jp:8000/viewdoc/index.html>)。

大学紀要の研究業績としての位置づけは、自然系を中心として高くはないが、電子化された大学紀要には、経営効率のよくない研究分野に出版機会を与えるとといった冊子体では実現しにくい社会

的意義がある。今後は（特に若手教官にとって）学内研究情報発信のための新たな手段として位置づけることが必要だろう。大学図書館もその支援を行うべきである。

最後に米国の大学図書館における電子化の事例が紹介された。コロンビア大学図書館長のバツェイン氏の構想に基づいて実現しつつあるラトガース大学新図書館構想では電子資料の入力、処理、加工という電子出版センター的機能が大学図書館に新しく加わっている。日本の大学で大学紀要の電子化を推進する場合も、大学図書館が積極的に係わる必要があるだろう。そのためには、マンパワーの問題、入力システム・組織の構築、電子テキストのはかなさへの不信感の払拭といった課題が残されている。

大学図書館に おける利用者とは： 研究者と情報

講演



越塚 美加
(こしづか・みか)
学習院女子大学助教授。
専門は図書館情報学。研
究テーマは、研究者の情
報利用行動、情報探索過
程。

まず、慶應大の大学図書館改革の事例が紹介された。慶應大では予算の実質削減という課題に対して、管理部門の徹底した外注化とサービス部門の活性化＝利用者教育の重視という方針を立てた。利用者教育は図書館における情報リテラシー（様々な情報源から情報にアクセスし、評価し、



利用する能力）教育の一環といえる。図書館で支援しやすい情報リテラシー教育には、①利用可能な情報源の同定、②効果的な探索戦略の構築、③コンピュータなどの技術を利用した情報源へのアクセス、の3点がある。それを専門的な個人向けに行うのがレファレンスサービスであり、一般的なマスに対して行うのが情報リテラシー教育ということになる。図書館で行うのが難しい情報リテラシー教育については、図書館以外の部局との分担が必要である。

次に研究者の情報利用行動の事例紹介がされた。研究者の図書館に対する期待は高くはないが、実際には選書・収集・組織化・配架といったテクニカル・サービスの結果としての図書館はよく利用されている。人文系研究者も自然系研究者同様欲しい資料は即座に読みたい、人脈を頼って情報収集をする、巻末文献をもとに芋づる式に探す、といった行動の事例が紹介された。また、調査を通じて対個人サービスのニーズのあることが明らかになった。

次にサブジェクト・ライブラリアン（専門分野に詳しい教官身分の図書館員）制度のある米国ラトガース大学のアレクサンダー図書館の事例が紹介された。サブジェクト・ライブラリアンは通常のカウンター業務に加え、研究過程の最初から最後まで資料面での支援を行っており、評価も給料も非常に高い。また、Scholarly Communication Center (SCC) <http://scc01.rutgers.edu/scchome/>

という新しいサービスを行っており、電子情報資源の高度な利用の支援や各種ソフトウェア、データベースの利用指導や諸施設のレンタルを行っている

最後に利用者にアピールするために図書館のサービス内容を広報することや e-mail を利用したきめ細かいサービスを行うことの重要性が述べられた。

インテリジェント化の中の大学図書館

発表
1



伍賀 一道

(ごか・かずみち)

金沢大学経済学部教授。専門は社会政策、労働経済論。研究テーマは、職業紹介行政の日英比較研究、労働市場の弾力化と規制緩和政策。本学図書館委員。

まず金沢大学附属図書館で取り組んでいるインテリジェント化構想の概要が紹介された。その構想には、来年3月に予定されている図書館システムの更新に伴う OPAC の改善，e-mail による文献依頼，経済学部をはじめとした学内紀要や学内貴重書の電子化，自動貸出システムといった構想が含まれる。

インテリジェント化に対しては、検索機能の充実，コミュニケーション機能の充実，地域圏内図書館との協力といった期待がある反面，職員数が減少するのに業務量増加に耐えられるのか，といった心配がある。また，コンピュータ・システムでは置きかえることのできない職員によるサー

ビスも重要である。本年度初めて開講された総合科目「大学図書館と図書資料に親しむ」の成果からみても図書館員による学生への教育，指導は重要である。インテリジェント化は無人工書館を目指すものではない。また，教育・研究のもたらす効率化にはデメリットもある。本を手にとって書庫を探す楽しみも失いたくない。

自然科学（工学） 研究者の図書館像

発表
2



岡島 厚

(おかじま・あつし)

金沢大学工学部教授。附属図書館工学部分館長。専門は流体工学。研究テーマは，流れの数値シミュレーションの研究など。現在計画中の自然科学系図書館新館に関する小委員会委員。

最初に自然科学系研究情報（特に発表者の専門の工学分野）の流れについて説明がされた。工学分野では規格と会議録が研究のために必要な情報としてよく利用されるが，それぞれについて電子化，CD-ROM 化の事例が紹介された。

発表者が所属する American Society of Mechanical Engineers (ASME) では，会議録が CD-ROM 化されはじめている。CD-ROM は検索や持ち運びに関してメリットがあるが，実際の会議時には結局プリント・アウトした紙が必要になるなど短所もある。

金沢大学では工学部，薬学部等のキャンパス移転に伴い，自然科学系図書館の新築を構想している。そこでは，当然「電子図書館的機能」が重視

され、世界に向けた情報発信基地になることが期待されているが、資料の電子化や文献検索に関しては上述のように長所と短所を持つことも理解しておく必要がある。また、電子図書館的機能を持つ新図書館では情報リテラシー教育も合わせて行う必要があるだろう。

シンポジウム参加者の感想から

大学図書館における情報リテラシー教育について

橋 洋平（工学部分館職員）

今回のシンポジウムのポイントは電子図書館時代を迎えると①学術情報の流通が変る、②そういった学術情報を使いこなすには情報リテラシーが必要になる、の2点である。①については各大学紀要の電子化を通じた情報発信の事例が、②については慶應大や米国の図書館の事例が報告された。後半ではそれらを金沢大で実現していくための方向性が示された。

私の中で最も関心のある話題は、図書館における情報リテラシー教育についてである。情報リテラシーは、大学生として最低限身につけるべき情報に関する能力であるが、その教育を図書館内で行うことは意義がある。図書館利用と密接なつながりのある情報リテラシー教育を館内で行い、教育活動と図書館を結びつけることができれば、図書館の地位は現在よりかなり高くなると感じた。

ただ、それを実現するには解決すべき課題も多い。図書館員が教育を行うべきなのか？前提となるサービスは十分なのか？定員削減をしながら行えるのか？...私は情報リテラシー教育というのは教育という言葉が入っている限り、本来は教官がカリキュラム内で行うべきものだと思う。図書館員が参加をするのは当然だが、それはあくま

でも補助だと思う。図書館組織内に情報リテラシー教育専門の教官がいて全学生に対してプロフェッショナルな教育を行うのが理想だと思う。

今回のシンポジウムでは、それぞれのテーマの実践に向けての回答は出なかったが、金沢大学附属図書館の将来の展望を考える上では大変意義のある内容だった。

真の光明を見たシンポジウム

林 裕紀子（医学部分館職員）

「流通」と「大学図書館」というキーワードから今の時代必ずと言って良いほど導かれる言葉が「電子化」「コンピュータネットワーク」といったものである。そしてこういったテーマを擁した会では、近未来的な、コンピュータ技術の進歩を期待しなければならない夢物語を聞くことが多く、また可能性にみちたコンピュータ技術面のみ語られ、図書館員や利用者等の「人間」といったものが無視されて語られることが多く、どこか片手落ちだと感じるのが常だった。今回もそれを覚悟して臨んだのだが、良い方に裏切られた。

様々な技術やシステムが夢語りでなく現場の図書館に入り込んできた現状もあるだろうが、今回のシンポジウムでは、利用者教育・その具体的な方法が語られたり、電子情報の現段階での問題点を取り沙汰されたりと、一層現実的というか、地に足のついた話が聞くことが出来た。

将来、大学図書館が大学の頭脳として十分に機能していくにはどうすれば良いかを、ハード、ソフトの両面から提案することの出来た意義のあるシンポジウムだったと思う。後は、これらの提案を机上の理論で終わらせることのないよう、私達現場の者たちがそれぞれ前向きに取り組んでいく必要があると感じた。

蔵書 散策

第1回

村上英俊と『仏語明要』



村上英俊（1811 - 1890）はわが国フランス学の始祖といわれる。英俊は下野国那須郡佐久山（栃木県大田原市）の本陣、佐野屋の当主、村上松園の長男として文化八（1811）年四月八日に生まれた。十四歳のとき、一家をあげて江戸に移住、松園がわが子に医学を学ばせるための移住であったという。漢学を大野鏡湖、医学を足立長雋、蘭学を宇田川榕菴に学ぶ。天保十二（1841）年妹チエが松代藩主の嫡子真田幸良の側室として住む信州松代に移住。松代藩士佐久間象山と知り合う。

象山が火薬製造の必要から取り寄せたスウェーデンのベリセリウス Jones Jacob Berzelius の『化学提要』がオランダ語訳でなくフランス語訳であったので、翻訳を勧められた。英俊は五ヶ月をかけてフランス文典を独習したのち『化学提要』を読もうとしたが、一行も読むことができなかったという。さらに十六ヶ月の難行苦行ののち、ようやく『化学提要』を読破したという。

嘉永四（1851）年江戸に出る。松代藩邸の片隅に住み、『三語便覧』（仏・英・蘭の三カ国語対照辞書）、『仏英訓弁』を刊行。そののち、仏和辞書の編集に取り組み、安政四年（1857年）『仏蘭西詞林』を書き上げて、松代藩主真田幸教に献上する。幸教は、国家有用の辞書を藩に私蔵するよりも、幕府の公用に役立たせたいと、幕府に納

めた。この辞書はいま伝わっていないので、内容は明らかでないが、英俊のフランス語の学識がかわれて、安政六年、幕府の蕃書調所の教授手伝にあげられた。

後進を育成するかたわら、さきの『仏蘭西詞林』を増補して『仏語明要』四巻を出版した。わが国で刊行された最初の仏和辞書である。総計370丁（740頁）、見出し語は3万5千を超える。この辞書は従来の辞書とは異なり、左綴じ、横書きという体裁にくわえて、語のアルファベット順の配列、品詞の区別、動詞の活用、成句などが記載されているもので、今日の辞書の原型を示している。

これは官版ではなく、英俊の自費出版であった。門弟のほか、英俊自身も、鷺鳥の羽を切って作ったペンで版下のフランス語を書き上げた。資金に困窮したが、門人上原塙一郎が出してようやく出版にこぎつけた。明治三年『明要附録』を刊行する。成句、単位、固有名詞などを収録している。

英俊は慶応三（1865）年、私塾達理堂を開いて後進を教えた。（門人録には429名の名前があり、中江兆民が破門されたことは有名）明治十八（1885）年フランス政府より日本のフランス学の発展に寄与したとしてレジョン・ドヌール勲章がおくられた。明治二十三（1890）年東京府北豊島郡金杉村にて永眠。享年78歳。



金沢のフランス学

金沢におけるフランス学は、吉木順吉により始まる。吉木は石州津和野藩の脱藩者で、江戸に出て村上英俊のもとでフランス学を学んだ。加賀

藩の藩費留学生のうち仏学希望の者たちは、仏学に通じ、また漢学にも造詣深い吉木順吉と知り合い、江戸で民家を借りて彼に就いて学んだ。ところが慶応四（1868）年早々戊辰戦争が勃発する。藩命により金沢に引き上げた彼らは、吉木を金沢に招き狂言師、豊屋九郎兵衛の能舞台を教場として学塾を開いた。それが藩の認めるところとなり、明治元（1868）年閏四月、藩校道済館と命名された。英仏学の他、漢学、数学なども教授された。吉木は同年十月に金沢を去るが、菊野七郎が後を継いだ。吉木、菊野をはじめ、二十名に余る加賀人の名前が村上英俊の門人録に記載されている。

当館の『仏語明要』『明要附録』は旧第四高等学校の蔵書であるが、いずれも「金沢学校」の蔵書印が押印されている。この蔵書印は、明治初期藩立・県立の諸学校の図書に押されたものである。金沢における黎明期フランス学の活気が書中から蘇ってくるようである。

（情報サービス課専門員 梶井重明）
（「蔵書散策」は今後随時掲載いたします）

ありがとうございました

本学教官等著作寄贈図書リスト

先生がたからご寄贈いただいた図書をご紹介します。これらはすべて整理も済み、中央館でご利用いただけます。

なお、図書館では著作の寄贈を歓迎しております。中央館受入係（電話076 - 264 - 5218）までご一報ください。

中村志郎（法学部教授）著

20世紀英米文学作品論 文学を如何に読むか
リーベル出版 1998.7

山本博（医学部教授）共編

医学のための基礎分子細胞生物学 南山堂
1997.5

生田省悟（法学部教授）共訳

医師の信仰・壺葬論 サー・トマス・ブラウン著

生田省悟，宮本正秀訳 松柏社 1998.7

古畑徹（文学部助教授）共著

中国史概説 熊本崇編著 白帝社 1998.5

村上清敏（文学部助教授）訳

大切な場所 ケープコッドの四季 ロバート・フ
ィンチ著 村上清敏訳 松柏社 1998.4

海野八尋（経済学部教授）共編

新時代の経済学入門 経済学教育学会教科書編
集委員会編 実教出版 1998.4

盛大衛（経済学部教授）共編

石川県サッカー協会50年史 1997.11

島田昌彦（文学部名誉教授）著

加賀城下町の言葉 能登印刷出版部 1998.1

古屋彰（文学部教授）著

万葉集の表記と文字 和泉書院 1998.1

山口成良（医学部名誉教授）共編

神経精神医学 秋元波留夫，山口成良編 第2
版 創造出版 1998.4

梶川勇作（文学部教授）著

近世尾張の歴史地理 企画集団 NAF 1997.11

佐々木雅幸（経済学部教授）著

創造都市の経済学 勁草書房 1997.11

深谷松男（法学部教授）著

現代家族法 第3版 青林書院 1997.4

深井一郎（教育学部名誉教授）著

鶴彬：反戦川柳作家 日本機関紙出版センタ -
1998.9

安川哲夫（教育学部教授）訳

学校教育の理論に向けて：クラス・カリキュ
ラム・一斉教授の思想と歴史 / デイヴィッド・ハ
ミルトン [著] 安川哲夫訳 世織書房 1998.7

李慶（外国語教育研究センター）著

中国文化中人的觀念 上海 学林出版社 1996.9

大久保英哲（教育学部教授）著

明治期比較地方体育史研究：明治期における石
川・岩手県の体操科導入過程

不昧堂出版 1998.10

本浄高治（理学部教授）共著

基礎分析化学 化学同人 1998.11

（受入係）

図書館のトピックス



コイン式コピー機を 導入しました (中央館)

利用者サービスを充実させるため、10月末に中央館カウンター脇に私費専用のコイン式コピー機(複写機)を1台設置しました。文献複写申込書にご記入の上セルフサービスをご利用ください。

なお、図書館では著作権法の認める範囲内で文献複写が可能です。(参考調査係)



貴重書展示コーナーを 開設しました (中央館)

中央館のサービスカウンター前に新しく展示

コーナーを10月から設けて、附属図書館の所蔵する貴重な資料を展示しております。その10月には、当「こだま」前号でもお知らせしたアダム・スミスの『哲学論文集』原書初版本など3点を展示し、12月からは今号6ページでご紹介している『仏語明要』をご覧いただいております。今後も随時展示替えをしていきます。(表紙の写真に展示コーナーが写っています) (閲覧係)

高校生・PTAの 皆さんが続々と見学に

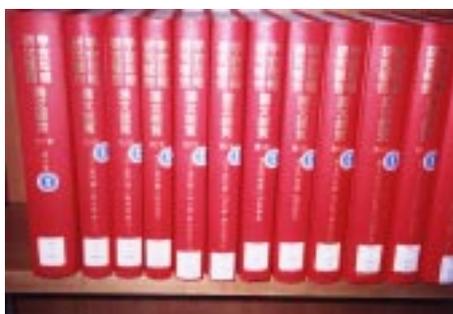
大学受験を控えた北陸三県の高校生やそのPTAの皆さんが貸切バスで金大キャンパスの見学会にたくさんおいでになり、図書館も見学会に協力して中央館をご案内しました。今年度は春から秋にかけて、砺波高校、高岡東高校、魚津高校、大野高校、福野高校、北陸高校、小松高校、鯖江高校などの皆さんが数十人単位で来館されました。

さて、参加者に好印象を持っていただけたか気になるところです。「図書館が素敵だから金大に入学したい」と思っていただけたらうれしいですね。(表紙の写真はその様子です)(閲覧係)

『学会年報・研究報告 論文総覧』を購入しました (中央館)

これは、1945 - 1990年の間に日本国内の学術団体・機関によって編集・刊行された人文・社会科

学分野の学会年報・研究報告・紀要などに掲載された論文の文献目録です。全体は、総合篇，人文・芸術篇，社会科学篇，教育・生活・情報篇，言語・文学・外国研究篇と総合索引を付し，合計18冊で構成されています。国立国会図書館編『雑誌記事索引』，図書館科学会編『全国短期大学紀要論文総覧』を補うツールです。中央館参考図書コーナーに備え付けてあります（請求記号027 5 : G 145）のでご活用ください。（参考調査係）



北信越地区 医学図書館協議会が 医学図書館で開催されました

10月29，30日の両日，第十九回北信越地区医学図書館協議会が，北信越地区大学附属の医学（歯学）系図書館8館の参加のもと，当大学医学図書館において開催されました。

今回は，定例の報告事項・協議事項の他に，「資料の分担収集・分担保存について」というテーマで各館の現状・将来構想についての発表がありました。大学の国公私立を問わないこの協議会では，専門分野間のネットワークの重要性がうたわれ，その強化が確認されました。

（医学部分館）

工学部分館に 情報コンセントが 設置されました

この度，工学部分館内に情報コンセントが設置されました。総合情報処理センター小立野分室に利用申請済のノートパソコン等と接続していただければ分館内からe-mailの利用，ホームページの閲覧などが可能になります。利用のための手続きとサービスの概要は下記のとおりです。

利用できる場所：

附属図書館工学部分館閲覧室・窓際（24箇所）

印刷室（7箇所）

利用できる時間：工学部分館の開館時間内

利用できる人：金沢大学工学部の学生，大学院生，研究生及び教職員

利用申請：

利用するには，総合情報処理センター小立野分室に「利用申請書」を提出し，「利用許可書」を発行してもらう必要があります。その際，利用を希望するパソコンのMACアドレスと利用者の所属・氏名等の記入が必要になります。詳細は，総合情報処理センター小立野分室にお尋ね下さい。なお，利用できる期間は学期（前期・後期）単位です。

利用上の注意事項：

- ・情報コンセントの利用中は「許可書」を見える場所に置いて下さい。
- ・利用中は周りに迷惑がかからないようにお気をつけ下さい。
- ・利用期間終了後は「許可書」を破棄して下さい。
- ・電源のコンセントが足りない場合は図書館のカウンターまでご連絡下さい。

（工学部分館）

臨時休館（3月中，1週間程度）いたします

附属図書館では1999年3月に業務用電子計算機システムの更新を予定しています。更新にともなう作業，及び併せて実施する館内整理のため，1999年3月に1週間程度休館いたします。ご不便をおかけしますが皆様のご協力をお願いします。

なお，休館期間の詳細は図書館ホームページや館内掲示等により別途お知らせします。

（閲覧係，システム管理係）

としょかん日誌（1998年9月～11月）

- | | | | |
|--------|-------------------------------|-----------------------------|--------------------------|
| 9月21日 | 平成10年度第1回総合目録デ - タベ - ス実 | 11月5日 | 平成10年度学術情報センタ - シンポジウム |
| ～10月9日 | 務研修(学術情報センタ -)宗近美佐子(参考調査係)受講 | (大阪府立中央図書館)村田勝俊(システム管理係長)出席 | |
| 9月29日 | 漢籍整理長期研修(後期)東京大学東洋文 | 11月6日 | 金沢地区大学図書館協議会特別研修会(星 |
| ～10月9日 | 化研究所)巖本康治(受入係長)受講 | 稜女子短期大学)宗近美佐子(参考調査係) | 他4名出席 |
| 9月25日 | 金沢地区大学図書館協議会講演会(星稜女 | 11月9日 | 平成10年度大学図書館職員講習会(京都大 |
| | 子短期大学)越野正勝(情報管理課図書館 | ～12日 | 学)橋美穂(雑誌係)受講 |
| | 専門員), 梶井重明(情報サ - ビス課図書 | 11月11日 | 第5回継続教育コースおよび医学図書館研 |
| | 館専門員)出席 | ～13日 | 究会(東京慈恵医科大学)林裕紀子(医学 |
| 10月5日 | 第11回北信越地区医学図書館員研修会(福 | | 部図書係)出席 |
| ～6日 | 井医科大学)中村律子, 北出頼子(医学部 | 11月13日 | 平成10年度石川県図書館大会(能登演劇 |
| | 図書係)受講 | | 堂)梶井重明(情報サ - ビス課図書館専門 |
| 10月6日 | 平成10年度文書実務研修(事務局大会議 | | 員)出席 |
| | 室)押見智美(受入係)受講 | 11月18日 | EDC/DEPトレ - ニングセッション(駐日欧 |
| 10月8日 | 平成10年度日本図書館協会地方講習会(石 | ～20日 | 州委員会)小川恭弘(閲覧係長), 松原美 |
| | 川県立図書館)青山弘(事務部長)講師, | | 重子(参考調査係長)受講 |
| | 村田勝俊(システム管理係長)受講 | 11月19日 | 平成10年度北信越地区国立大学附属図書 |
| 10月12日 | 石川県地区国立学校等会計事務職員研修 | | 館事務(部・課)長会議(北陸先端科学技術 |
| ～14日 | (辰口共同研修センタ -)押見智美(受入 | | 大学院大学)青山弘(事務部長), 金井晃 |
| | 係)受講 | | (情報管理課長), 米澤章雄(情報サ - ビ |
| 10月23日 | 平成10年度金沢大学附属図書館シンポジウ | | ス課長)出席 |
| | ム(大学教育開放センタ -) | 11月25日 | 第11回国立大学図書館協議会シンポジウム |
| 10月29日 | 北信越地区国立大学図書館研修会(長岡技 | ～26日 | (広島大学)谷口貞治(雑誌係長)出席 |
| ～30日 | 術科学大学)谷口貞治(雑誌係長), 守本 | 11月27日 | 平成10年度第2回石川県立図書館協議会 |
| | 瞬(システム管理係)受講 | | (石川県社会教育会館)橋本哲哉(図書館 |
| 10月29日 | 第19回北信越地区医学図書館協議会(金沢 | | 長)出席 |
| ～30日 | 大学医学図書館) | | |

金沢大学附属図書館報「こだま」第132号

発行：金沢大学附属図書館 編集：広報委員会

〒920 1192 金沢市角間町 電話 076 264 - 5200

ホームページURL <http://www.lib.kanazawa-u.ac.jp/>

電子メールアドレス postman@haya.lib.kanazawa-u.ac.jp

読者の皆様からのおたよりをお待ちしております。

1999年1月11日発行

印刷：活文堂印刷株式会社

表題地模様 © Toku Yusui (加賀友禅染絵『さやく、おどる』。由水十久(1913 - 1988)は金沢出身の加賀友禅作家です。)